

令和5年度 基本施策評価シート

作成日 令和5年7月12日

基本施策	G2	だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります	
2025年度にめざす姿	対象		意 図
	市民が		自ら学ぶとともに、学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている。
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			200ページ
基本施策主管課名	生涯学習企画課	関係課名	生涯学習施設課、都市経営室

基本施策の総合評価

総括	<p>●基本施策の成果指標である「自発的に学びに取り組んでいる市民の割合」は、33.4%(令和4年度調査結果)で、基準値である38.4%(令和元年度)を下回っている。また、成果指標「生涯学習施設等の利用者数」は、新型コロナウイルス感染防止のための利用自粛もあり、2,243千人(令和4年度実績)と、基準値である2,680千人(H28~H30年度の平均)より下回っているものの、令和3年度の1,706千人と比較すると増加傾向にある。以上を踏まえ、今後の主な取り組みは次のとおりとする。</p>
G2-1	<p>●公民館講座については、市民が気軽に集まりやすい日時での講座の開催や、デジタル機器に不慣れな高齢者などの支援等、ICTを活用した講座等を充実させる。</p> <p>●科学館では、オンライン配信などインターネットを活用した事業に取り組み、科学の不思議さを学べる取り組みについて、内容をさらに充実する。</p> <p>●恐竜博物館では、他施設の事例検討やアンケート調査等でニーズを把握し、多様なプログラムの開発と実施を図る。</p> <p>●図書館では、子どもの読書活動を推進するとともに、各種事業やイベントを実施することで、市民の読書活動の推進と電子図書館の周知に取り組む。</p> <p>●日吉自然の家では、引き続き、自然に親しむ体験学習の場を提供し、市民の生涯学習の振興に努める。</p> <p>●U-サポの取り組みについては、学生ニーズを捉えた学びの場を創出し、低迷している参加状況のV字回復を目指す。</p> <p>●「ながさき若者会議」の取り組みについては、若者と行政のそれぞれの強みを活かした持続可能な運営体制をめざし、会議の共催という形で行政も伴走支援する。</p>
G2-2	<p>●公民館ボランティアの登録者数を増加させるため、ボランティアが望んでいる活動内容を把握し、また、公民館が学んだことを還元できる場であることを広く周知するなど魅力ある活動となるよう努める。</p> <p>●図書ボランティアの活動は、新型コロナウイルス感染症流行以前の状況に回復してきているので、引き続きボランティアとの協働体制を構築していく。</p> <p>●ファミリープログラムファシリテーターについては、引き続き認定及びスキルアップ研修会を開催するなど登録者の裾野を広げ、活動しやすい環境づくりに努める。</p>

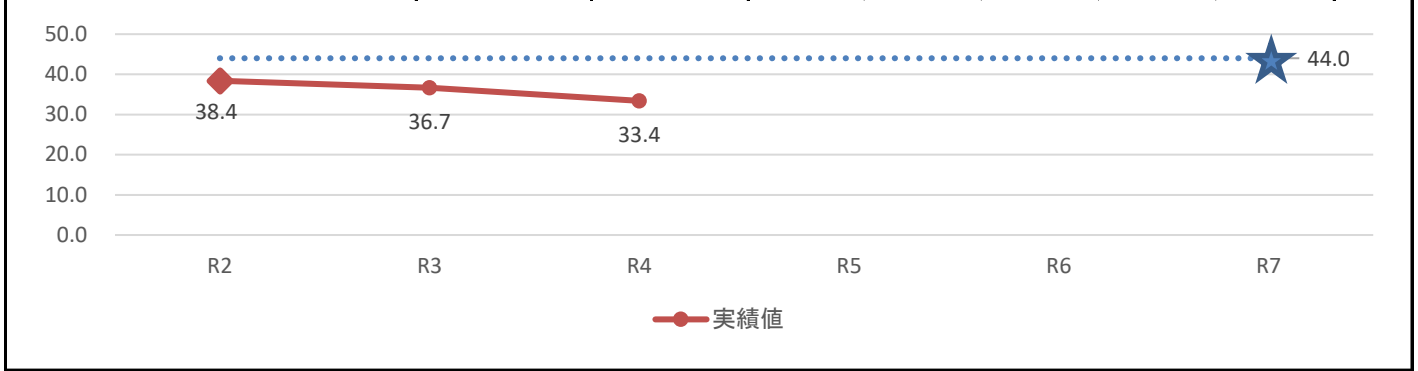
二次評価(施策評価会議による評価)

●	G2-1の「成果」「①市民の学習機会の充実」において、宿泊体験学習等について追記を検討すること。
●	G2-1の「①市民の学習機会の充実」に関する「電子図書館」の取り組みについて、「成果」でコンテンツを増やしたにもかかわらず、「問題点とその要因」で利用が広がらないとあり、関係性が分かりにくいことから、関係性が明確になるよう表現を修正すること。また、「今後の取組方針」については、子どもやその保護者へ周知強化を図るとともに、SNS等の活用も検討すること。さらに、電子図書の利用が多い東大阪など他都市の取組みを分析のうえ、利用者のニーズの把握に努め、今後の取組みに活かすこと。
●	G2-2の「成果」に記載してあるファミリープログラムについて、ファシリテーターの人材育成や認定者の増などは記載しているが、その結果を踏まえた具体的な活動に関する成果についても追記すること。
●	G2-2の「問題とその要因」のファミリープログラムにおいて、「一定の登録者に負荷がかかっている」旨の記載があるが、「今後の取組方針」において、その対応が分かりにくい表現となっていることから、「登録者を増やすことで裾野を広げ、負荷を減らす」など、対応策が分かるような趣旨の表現に変更すること。

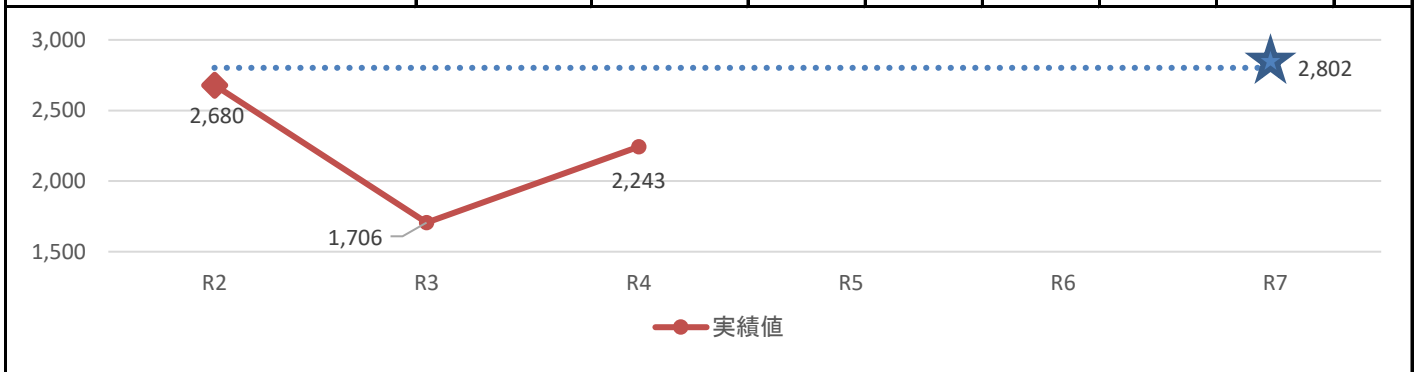
- G2-2の「問題点とその要因」 「①学習活動ボランティアへの活動機会の提供」において、ボランティア活動に関し、施設によって活動の機会を提供できていないとしているが、その対応策が「今後の取組方針」にないことから、対応策を検討のうえ記載すること。

成果指標

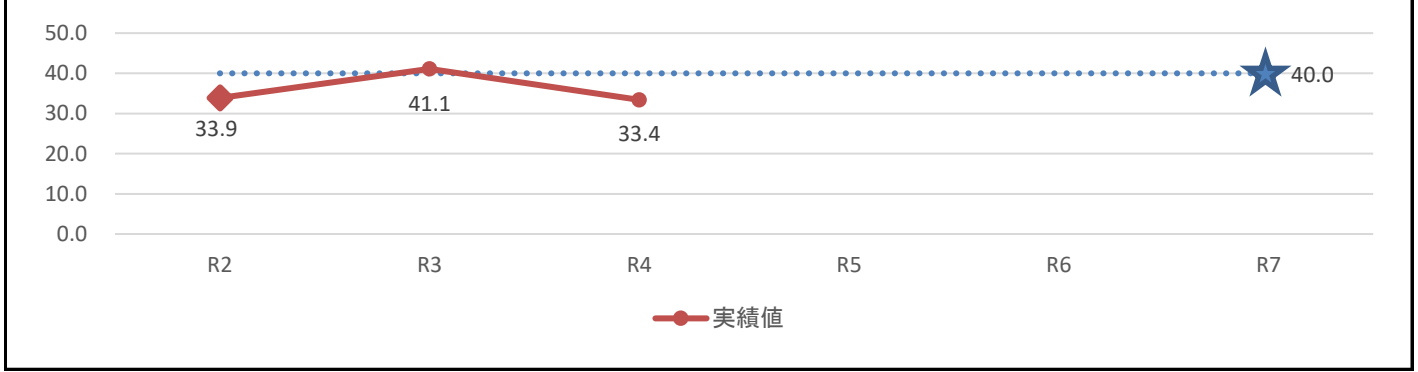
指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値からの傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
自発的に学びに取り組んでいる市民の割合	38.4% (R元年度)	44.0% (R7年度)	36.7	33.4	0.0	0.0	0.0	↓



指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値からの傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
生涯学習施設等の利用者数	2,680千人 (H28~H30年度の平均)	2,802千人 (R7年度)	1,706	2,243	0	0	0	↓



指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値からの傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合	33.9% (R元年度)	40.0% (R7年度)	41.1	33.4	0.0	0.0	0.0	↓



年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館をはじめとする生涯学習施設等で行う講座や教室の参加者数の増加(58,173人) ・図書館で、市民の読書活動を推進するための「おはなし会」などの事業取組みによる来館者数の増加(647,544人) ・U-サポの取組みによる学生登録者数などの増加(学生登録者数:3,295人、応援団体登録数:333団体、ボランティアのべ参加数:4,376人) 			

令和5年度 個別施策評価シート

個別施策	G2-1	学びの場と機会の充実を図ります
2025年度にめざす姿	対 象	意 図
	市民が	様々な場所で集い、交流するとともに、ライフステージに応じた学習プログラムや現代的課題・地域課題などを学んでいる。
個別施策主管課名	生涯学習企画課	

成果

① 市民の学習機会の充実

●公民館では、デジタル技術を利用できない人をサポートする仕組みの構築を目指して、すべての公民館へのWi-Fi環境の整備を行った。また、講座の情報や、学習グループの活動などの情報発信や動画の配信(2館で71回)など、インターネットを活用した情報発信により、多くの市民に公民館活動を詳しく知ってもらうきっかけとなった。また、情報発信のほか、夜間や土日や祝日など参加しやすい時間での講座開催にも取り組み、講座等への参加者(R3 27,568人→R4 36,031人)が8,463人増加した。

●科学館では、体験を通して楽しく学習できる科学教室や、より多くの子もたちに科学の不思議さや面白さを学ぶ機会を提供するため、出前サイエンス教室を実施するなど各種事業を行い、科学館の利用促進を図ったことにより、123,407人の来館があり、科学に関する知識の普及及び啓発、科学教育の振興につながった。

●恐竜博物館では、恐竜を中心とする古生物学や地学への興味関心を高めるため、年間3回の企画展を開催したことにより、223,171人の来館があり、また、来館者に対して体験型のワークショップを1日2回開催したことにより、4,180人の参加があり、来館者の学習機会の提供に寄与した。

●図書館では、子どもの豊かな感性や心を育み、生涯にわたる読書習慣につなげるとともに、市民の読書活動を推進するため、「おはなし会」など各種事業に取り組んだことにより、来館者数(R3 543,548人→R4 647,544人)、貸出者数(R3 280,630人→R4 321,312人)、貸出冊数(R3 969,648冊→R4 1,112,394冊)が前年度より増加した。また、幅広い層の市民に読書に親んでもらうため、電子図書館のコンテンツ(R3 9,113件→R4 12,115件)を拡充したことにより、電子図書館の貸出数(R3 4,773件→R4 8,589件)が増加した。

●日吉自然の家では、自然に親しむ体験学習の場としての活動環境を充実させるため、施設内にWi-Fi環境を整備したことにより、子どもたちが活動を通じて触れた動植物や食材などの調べ学習の際に端末機器が使用できるようになるなど、学習の幅が広がった。

② 学生・若者への体験活動支援

●学生の自主的な社会参加活動を通じて、学生の人間的成長と地域の活性化を図るため、ボランティア活動について学生と地域のマッチングを行うU-サポの取組みとして、大学1年生を対象とした「キャリア入門講座」でボランティア講話を行ったことにより、ボランティア登録が促進され、学生登録者数(R3 3,214人→R4 3,295人)が前年度より増加したことで、ボランティアのべ参加数(R3 3,835人→R4 4,376人)も増加につながった。

●若者が実現したいアイデアや企画にチャレンジできる場を確保するため、その基盤となる「ながさき若者会議」の自立に向けて若者会議メンバーと協議・検討を進めた結果、若者による自主的な会議運営を行う「ながさき若者会議運営プロジェクト」が令和4年7月に立ち上がり、継続的な若者がチャレンジできる場が確保された。

問題点とその要因

① 市民の学習機会の充実

●公民館では、情報発信や講座の開催日時に工夫を加えたことや、コロナ渦から一定程度回復したことで講座数や参加者数は増加に転じ、また、その間に定着をみたICTを活用した講座等の周知も進んできているが、まだデジタル機器に不慣れな高齢者などが一定数存在するものと考えられ、高齢者へのデジタル対応のサポートに対する公民館職員のスキルアップも課題となっている。

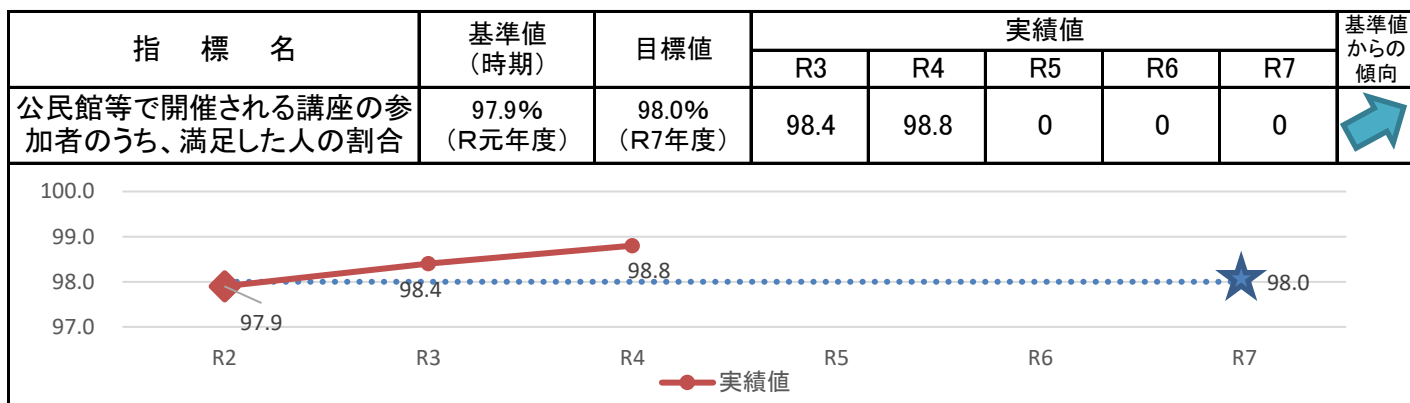
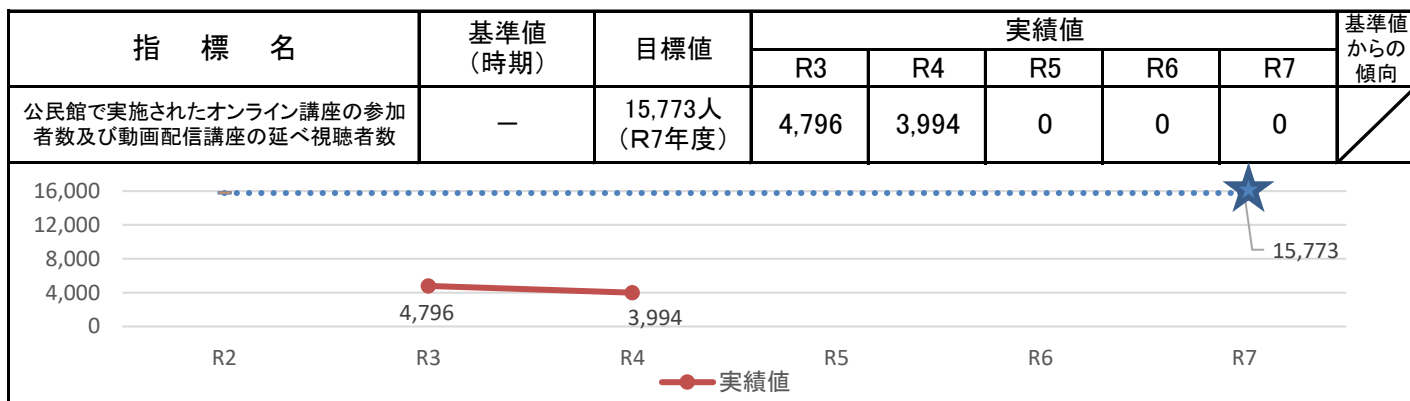
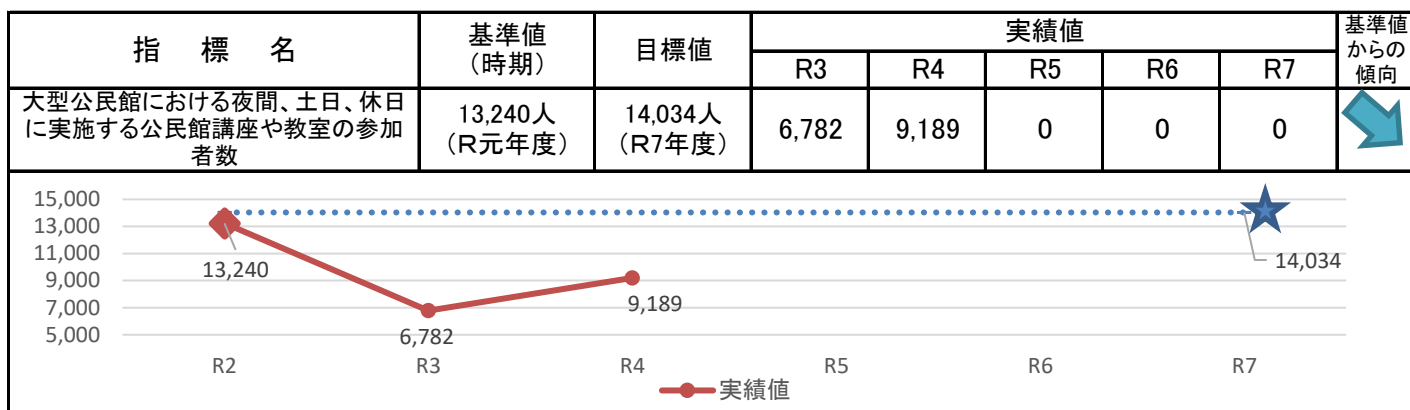
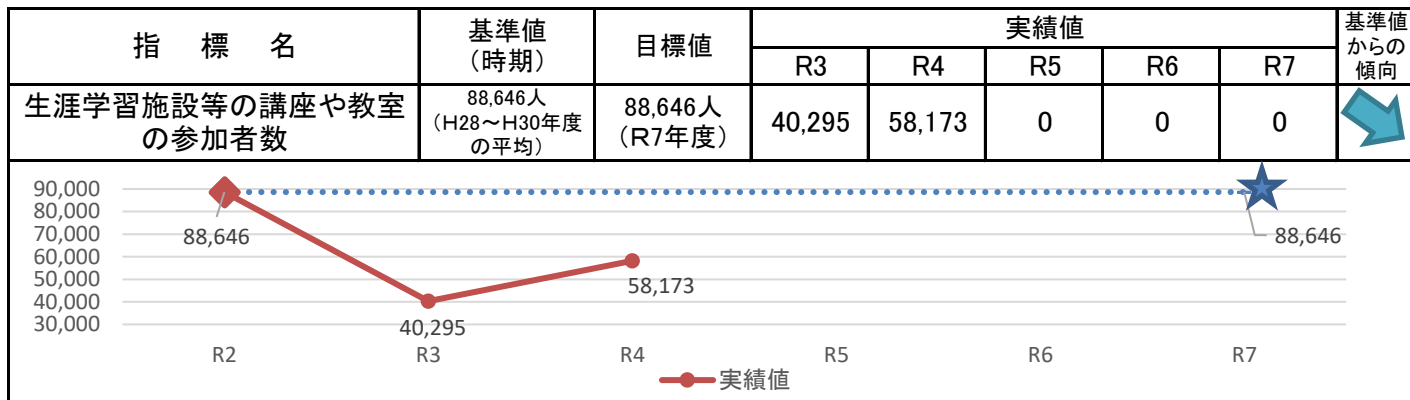
●科学館では、ICTを活用した運営ができるように、令和4年度にWiFiの整備を行ったものの、各種教室や実験を配信するためのソフトや機器、人材が十分ではなく、インターネットを活用した事業ができていない。

<p>●恐竜博物館では、1日2回のワークショップを行っているものの、主な内容は、ブロック玩具を使っでの恐竜組立や折り紙、しおり作りなどであり、恐竜を中心とする古生物学や地学について深く学ぶ内容のものが少ない。</p>
<p>●図書館では、各種事業に取り組んだことにより、利用は前年度より増加しているものの、新型コロナウイルス感染症流行以前の水準(R元 来館者数 841,058人、貸出者数 402,763人)までは回復していない。また、電子図書館に関しては、広報ながさきやあじさいニュース、SNS等で周知を図っているものの、コンテンツ数12,115件に対して貸出数8,589件に留まっており、利用がなかなか広がらない。</p>
<p>② 学生・若者への体験活動支援</p>
<p>●U-サポの取組みについては、ボランティア延べ参加数は、コロナ禍の収束とともに増加傾向にあるが、コロナ禍以前の状況(R元 5,431人)まで回復していない。</p>
<p>●「ながさき若者会議運営プロジェクト」を立ち上げ、若者の自立的運営の機運が高まっているが、若者会議のメンバーだけでは会議場所の確保や学びの質を確保するための講師招へいなど、持続的な会議運営が難しい。</p>

今後の取組方針

<p>① 市民の学習機会の充実</p>	
継続	<p>●公民館講座については、デジタル機器に不慣れな高齢者などの支援等、ICTを活用した講座を開催し、実施にあたって不足するノウハウを公民館職員が学ぶための機会を設けるなど充実を図る。また、企画内容や周知方法について、さらに工夫し、平日(昼)に参加することができない受講者のため、市民が気軽に集まりやすい日時(土日、休日、夜間など)での講座の開催や、足を運びたい講座の工夫に引き続き努める。</p>
継続	<p>●科学館では、必要な機器を整備し、オンライン配信などインターネットを活用した事業に取り組むとともに、プラネタリウムや科学実験・工作による、見て、触れて科学の不思議さを学べる取組みについて、科学館運営協議会等の意見を聞きながら内容をさらに充実する。</p>
継続	<p>●恐竜博物館では、他施設の事例検討やアンケート調査等でニーズを把握し、学習効果が深まる多様なプログラムの開発と実施を図るとともに、市立小学校5年生の宿泊体験学習時の訪問施設として、長崎市産の恐竜化石等の価値への理解を深める。</p>
継続	<p>●図書館では、第三次長崎市子ども読書活動推進計画に基づき、関係課、関係機関と連携し、子どもの読書活動を推進するとともに、各種事業やイベントの実施、SNS等を活用した情報発信の強化などにより、市民の読書活動の推進と電子図書館の周知に取り組む。また、他都市の電子図書館の普及への取組みや利用者のニーズの把握に努め、電子図書館の利用促進を図る。</p>
継続	<p>●日吉自然の家では、引き続き、市立小学校5年生の宿泊体験学習の受け入れをはじめとする自然に親しむ体験学習の場を提供し、市民の生涯学習の振興に努める。</p>
<p>② 学生・若者への体験活動支援</p>	
継続	<p>●U-サポの取組みについては、コロナの扱いが5類に移行し、対面型も含めたボランティア活動の回復が見込まれる中、学生ニーズを捉えた学びの場を創出し、低迷している参加状況のV字回復を目指す。</p>
継続	<p>●「ながさき若者会議」の取組みについては、「若者がチャレンジできる場」を継続していくため、若者と行政のそれぞれの強みを活かした持続可能な運営体制をめざし、会議の共催という形で行政も伴走支援する。</p>

成果指標



指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
地域でのボランティア活動に参加した学生数	5,431人 (R元年度)	5,431人 (R7年度)	3,835	4,376	0	0	0	

時期	実績値
R2	5,431
R3	3,835
R4	4,376
R7 (目標)	5,431

施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	貸室におけるWi-Fi整備	生涯学習企画課
	事業目的	インターネット等のデジタル技術を利用できる人とそうでない人との間に情報格差が生じないように、公共施設や地域におけるコミュニティなど身近な場所で、デジタル技術を利用できない人をサポートする仕組みの構築を目指す。	
	事業概要	オンラインでの研修や会議が急速に普及する中で、長崎市のDXを推進するとともに、利用者の利便性の向上を図るため、貸室にインターネット環境を整備する。	
	取組実績	大型公民館・文化センター 8館 地区公民館 10館	
	決算(見込)額	2,516,580 円	



【タブレット体験教室】



【プログラミング講座】

2	事業名 担当課	図書館を使った調べる学習コンクール事業	生涯学習施設課
	事業目的	図書館にある豊富な資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒等が自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、その活動において、公共図書館、学校図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、図書館の役割を認識し、今後の図書館の利用促進につなげていく。	
	事業概要	図書館等を利用し、調べ物学習を行い、その結果をレポートとして作成し、1つの作品として応募されたものについて、審査を行い、優秀作品を表彰する。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・応募者数 68人 (内訳) 小学生低学年:24人 小学生中学年:18人 小学生高学年:17人 中学生:9人 (高校生0人、一般:0人) ・全国コンクールへ2点の作品を推薦したところ、1点が優良賞、1点が佳作を受賞した。 ・コンクールの周知と応募者の増加を図るため、小学生を対象とした「調べる学習たいけん教室」を実施。2回、参加者55人。 ・応募者数が減少傾向にあるため、学校教育課等と連携し、さらなる周知を図り応募者数を増やすとともに、全国コンクールでの入選作品を増やす必要がある。 	
	決算(見込)額		38,346 円



【コンクール表彰式】



【市長賞作品】

3	事業名 担当課	游学都市・ながさき推進費	都市経営室
	事業目的	長崎のまち全体が貴重な学びの場となるような游学の地として個性と魅力を高め、若者をはじめ多くの人々が交流するまちとなることを目的とする。	
	事業概要	長崎地域の大学と連携し、学びの場としての魅力向上と長崎で学ぶ魅力の情報発信に取り組む。	
	取組実績	<p>大学1年生を対象とした「キャリア入門講座」でボランティア講話を行い、ボランティア登録を促進した。</p> <p>長崎のまちを舞台に最先端で活躍する人材を講師として招致し、学生が無料で視聴できるオンライン講座をリレー形式で実施した。</p>	
	決算(見込)額		2,318,880 円



【ボランティア体験(海浜清掃)】



【リレー講座チラシ】

令和5年度 個別施策評価シート

個別施策	G2-2	能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります	
2025年度にめざす姿	対象		意 図
	市民が		学びを通して習得した能力や経験を、地域の学習活動等に活かしている。
個別施策主管課名	生涯学習企画課		

成果

① 学習活動ボランティアへの活動機会の提供

- 自らの学びや経験を活かし、学習活動に還元していくことを目指すなかで、公民館では、自主学習グループが自ら学んだことを子どもや初心者に教える活動が行われた。このことで、地域住民の学習意欲に応え、教える側はモチベーションをアップしながら、自らの技術も磨く相乗効果が生まれた。
- 図書館を生涯学習の拠点として充実させるため、図書館ボランティアに対し、図書館での配架(図書を棚に並べる作業)や新聞記事のクリッピング、イベントサポート等の活動や、学校図書館での読み聞かせ活動の機会を提供したことにより、延べ616回、2,384人の参加があった。
- 家庭教育の取り組みとして、学校や学級単位で保護者同士が話し合いながら子育てや生活習慣などについて相互に学びあう「ファミリープログラム」を充実させるため、コーディネートするファシリテータの人材育成を目指し、認定及びスキルアップ研修会を実施し、新たに5人が県認定ファシリテーターに登録され、ファシリテーターにとっては資質を向上させる機会となった。新規認定者もファシリテーターとして活動に加わり、全体で、実施回数(R3 47回→R4 59回)と参加者数(R3 1,214人→R4 1,932人)が増加した。

問題点とその要因

① 学習活動ボランティアへの活動機会の提供

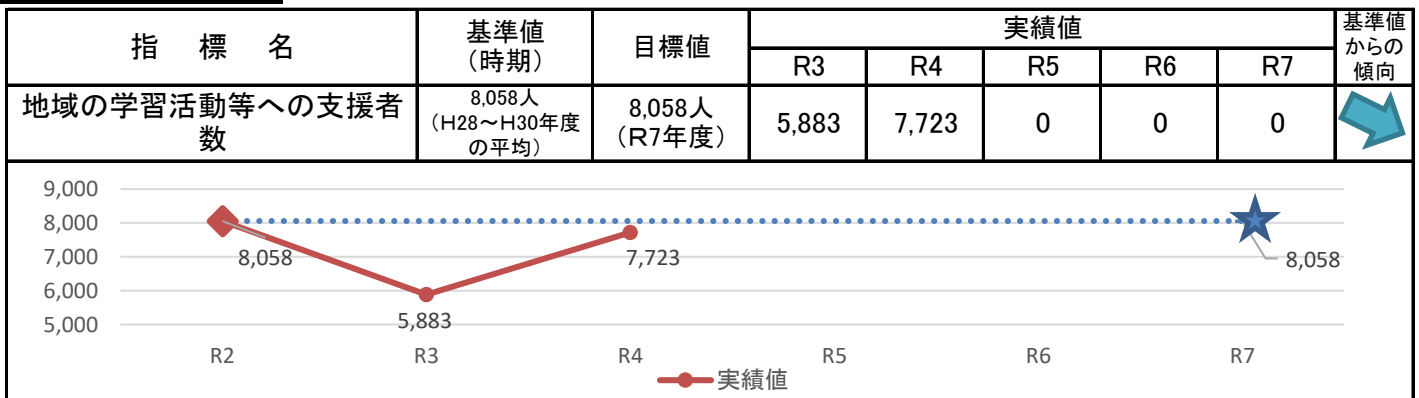
- 公民館のボランティア活動回数(R3 226回→R4 325回)と参加者数(R3 459人→R4 642人)は前年度より増えており、コロナ禍以前の活発な活動が戻りつつあるが、施設によっては活動の機会を提供できていない。活動を通じて学んだ経験や知識を若い世代に継承し、新たな経験ができる場として公民館を利用してもらえるようにするための周知や利用促進が不足している面がある。
- 図書ボランティアの活動は、参加者数は新型コロナウイルス感染症流行以前の状況に回復してきているものの、出張おはなし会等の読み聞かせボランティアに関しては回復できていない。
- ファミリープログラムファシリテーターの登録者には就労世代が多いことなどから、活動可能な実人員が固定化され、一定の登録者に負荷がかかっている面がある。

今後の取組方針

① 学習活動ボランティアへの活動機会の提供

- | | |
|----|---|
| 継続 | ●公民館ボランティアの登録者数を増加させるため、ボランティアが望んでいる活動内容を把握し、また、公民館が学んだことを還元できる場であることを広く周知するなど魅力ある活動となるよう努める。 |
| 継続 | ●図書ボランティアの活動は、新型コロナウイルス感染症流行以前の状況に回復してきているので、引き続きボランティアとの協働体制を構築する。 |
| 継続 | ●ファミリープログラムファシリテーターについて、引き続き認定及びスキルアップ研修会を開催するなど、登録者の裾野を広げ、活動しやすい環境づくりに努める。 |

成果指標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	公民館支援ボランティアの活用	生涯学習企画課
	事業目的	地域住民の活動拠点となる公民館において、住民参画型公民館活動のより一層の充実と発展を図り、ボランティア意識の高揚及び地域課題解決のための活動に参加できる仕組みづくりを行う。	
	事業概要	ボランティアに登録した人たちが、講座の企画・運営等の活動を行う。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館 420人(213回) ・東公民館 34人(20回) ・西公民館 49人(34回) ・南公民館 121人(40回) ・滑石公民館 18人(18回) 	
	決算(見込)額		286,030 円



【ボランティア講座】

2	事業名 担当課	図書ボランティアの活用	生涯学習施設課
	事業目的	ボランティア活動を通じて、地域社会へ貢献しようとする市民とともに、よりよい図書環境をつくるため、市民と図書館との協働体制を構築する。	
	事業概要	ボランティアに登録した人たちが次の活動を行う。 ・図書の装備(図書をビニールのフィルムでカバーしたり、バーコードなどを貼ったりすること)や配架(図書を棚に並べる作業) ・長崎市に関連する新聞記事のクリッピング ・図書館等での読み聞かせ等	
	取組実績	図書館のボランティアとして登録した人たちが、図書の装備や読み聞かせ等の活動を行い、図書環境の整備に寄与した。 <ul style="list-style-type: none"> ・図書の配架 767人(273回) ・図書の装備 1,087人(140回) ・新聞記事クリッピング 378人(131回) ・読み聞かせ 68人(22回) ・イベントサポート 50人(21回) ・YA(学生)ボランティア 34人(29回) 	
	決算(見込)額		49,000 円



【図書の装備】



【出張おはなし会】